

第11回 市長と話そう 津山づくりミーティング

～津山市の今後の農業について～



地域農業の中核として農業に従事する津山市農業士の6人が、9月29日に市長と意見交換をしました。

参加者 飼料や燃料などの経費の高騰や売買価格の低下で、経営を続けることが難しくなっている。農業を取り巻く環境は、特に近年大きく変貌している。

参加者 有害鳥獣被害については、イノシシやシカ以外にも、ハクビシンなど小動物もある。鳥獣によって被害も異なるので、対策となるネットや柵の効果的な設置方法や補助制度の変更を検討してはどうか。

参加者 自然災害による被害が心配だ。実った果樹などが収穫前に被害にあうと、本当につらい。

参加者 担い手が農業を職業に選択できるよう、農業だけで生計が成り立つことを目指している。大きな問題は、生産コストを販売価格に転嫁できないこと。また、収穫量の増加などで需要過多になれば、愛情をもって育てた作物を廃棄処分しなければならない。生産物の価値を高める事が必要だ。そのためには、特産品化、地域ブランド化することが解決策と考える。



参加者 作付品種を早生品種に変えるなど農作物の刈り取り時期をずらし、年間の作業時期を平準化できればいいと思う。

参加者 休耕田にひまわりやレンゲを植えている。美しい風景を見た人の笑顔に、自分もよろこびを感じている。



参加者 畦の草刈りの音などに、周りの人の理解が得られればと思う。地域の自然や環境、景観の維持に、農業者が大きく貢献している。農作物の収穫だけではない、農業の多面的機能をもっと知ってほしいし、伝えたいと思う。

参加者 農業を取り巻く環境は厳しいものもあるが、そのなかで就農する決心をした若者を讃えたい。自分なりの工夫で、道を拓いていってくれると思う。そのためには、農業の魅力を更に伝えていくことが、先輩農業者の使命と考える。就農する人を応援し、また子どもの頃の原風景を残していくという夢を持ち続けて、がんばっていきたい。

市長 農業者の皆さんへの努力に見合う適正な価格で、魅力ある津山の農産品が販売される環境づくりに努力していきたい。

■参加者への事後アンケートの声

- ・市には現状の理解を深め、出席者は相互の考えを再確認できた。
- ・時間内に思いを語り尽くせなかった。もう少し時間があればと思う。
- ・関係者の意見を、今後も幅広く聞いてみたい。
- ・思ったより意見をかわすことができた。



(前列左から) 三谷智子さん、岡本俊則さん、仁木泉さん、高山君枝さん
(後列左から) 甲元敬司さん、谷口市長、仁木紹祐さん